5 戦略

Hondaのサステナビリティ ···· 13
持続的な成長のために ····· 14
2030年ビジョン ····· 15
▶ マテリアリティマトリックス ···· 16
サステナビリティマネジメント体制 17
ステークホルダーエンゲージメント 18
研究開発 ····· 20
イノベーションマネジメント ···· 21

マテリアリティマトリックス

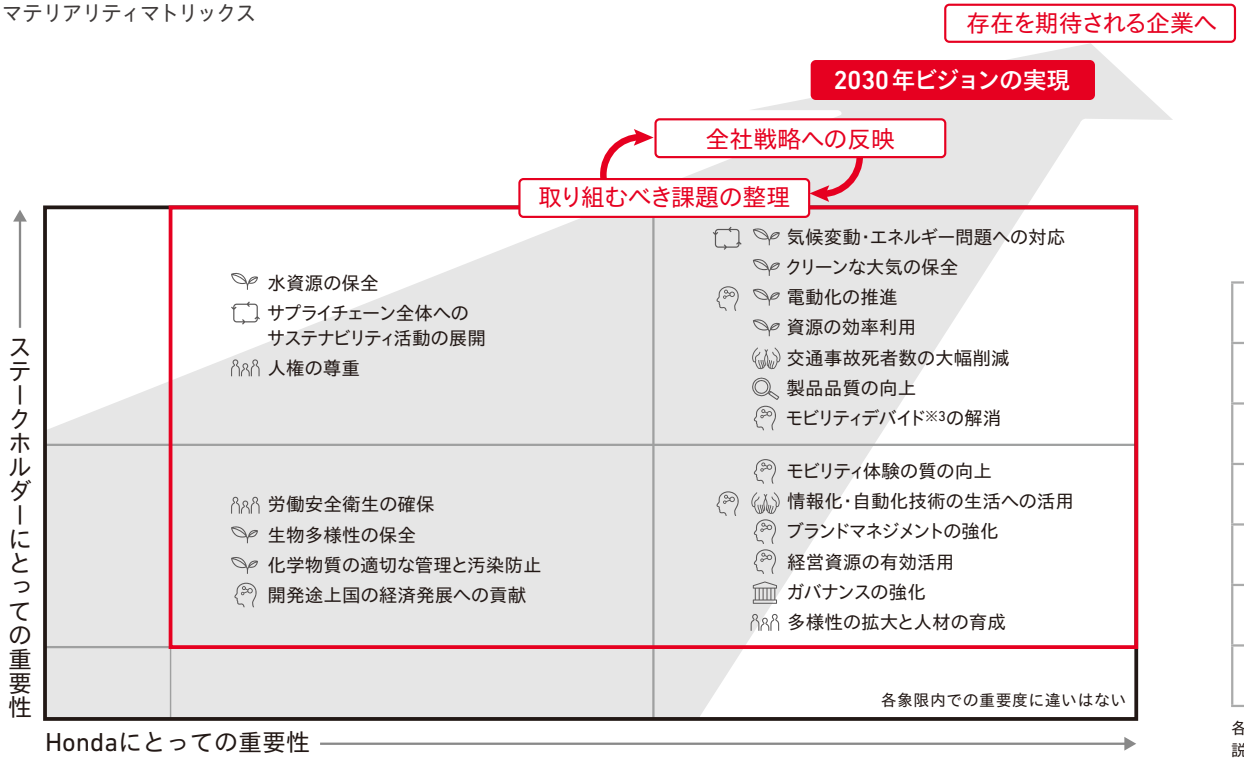
ステークホルダーの視点を踏まえた課題の評価（マテリアリティマトリックス）

Honda フィロソフィーを基点とした長期ビジョン達成に向けては、取り組むべき重要な課題を Honda とステークホルダーの 2 つの視点から整理しています。「マテリアリティマトリックス」はそうした課題を整理するための代表的なフレームワークであり、これを作成・活用することで、課題の網羅性を確認し、位置付けを明確化しました。

マテリアリティマトリックスの作成にあたっては、課題の抽出とその重要性の評価という 2 段階で行いました。課題の抽出は、社内各本部のメンバーによる議論に加え、技術革新の状況、SDGs ※1 やパリ協定に記された社会課題も踏まえ、グローバルかつバリュー・チェーンの観点で実施しています。そしてこれら課題の重要性のステークホルダー視点での評価は、代表的な ESG ※2 評価機関や、企業のサステナビリティに精通した欧米の NGO との対話などを通じて行いました。そのうえでサステナビリティ戦略会議などにおいて経営メンバーが評価、確認をしています。

こうして、「カーボンフリー社会の実現」や「交通事故ゼロ社会の実現」などを、モビリティカンパニーとして優先的に取り組むべき重要課題として可視化することができました。これらは、SDGs 目標 13「気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る」、目標 7「すべての人々に手頃で信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する」や目標 3「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」などの達成に貢献するものと考えています。このようにステークホルダーの視点を踏まえて特定された重要課題は、ビジョン達成のための全社戦略に反映され各事業活動へ織り込まれていきます。

マテリアリティマトリックス



戦略	（⇒P.12）
ガバナンス	（⇒P.23）
環境	（⇒P.36）
安全	（⇒P.56）
品質	（⇒P.65）
人材	（⇒P.79）
サプライチェーン	（⇒P.96）

各重要課題に対する取り組みは、各パートで説明しています。

※1 SDGs：Sustainable Development Goals の略。2015 年に国連持続可能な開発サミットにおいて採択された貧困や飢餓、エネルギー、気候変動、平和的社会などに関する国際目標。
※2 ESG:Environment（環境）、Social（社会）、Governance（ガバナンス）の略。
※3 モビリティデバイド：移動手段の違いによる人の生活の格差。